

第三景 家の周りの確認

キーワードは「敷地の地形・建物の配置・設備機器」

- 敷地の地形：水路や池、斜面や崖など。
- 建物の配置：屋根の形・向き、排雪場所、沿道条件など。
- 設備機器：給湯機・暖房機、ボイラー・タンク、自転車・物干し・小屋など。

灯油タンク・プロパンボンベ

- タンクやボンベの周りに壊れやすい油量計や配管があるので、囲っておくといいでしょう。
- 雪下ろしの時にも、その周囲に落とさないようにしたり、板を立てかけて守るようにしましょう。

ポイント 様々な配慮が必要

- 「屋根の雪は下ろせば終わり」ではありません。
- 様々な配慮が必要で、ここに示したものはあくまで例示です。
- 各家で状況が異なるので住民との対話を大切に。

煙突や給排気筒

- 給湯器やボイラーの煙突、FF式温風暖房機の給排気筒等の周辺に雪がたまると、不完全燃焼を起こして機器が傷んだり、一酸化炭素中毒の原因になる恐れがあります。
- 雪が降る前に、位置と周囲の状況を確認しておきましょう。

水路や池

- 家屋周辺の水路や池は、排雪や融雪に利用できませんが、冬に転落すると重大な事故につながります。
- 雪に覆われて見えにくくなるので、冬前に赤布をつけた竹ざお等の目印をつけましょう。

自転車や物干し台など

- 庭に出しっぱなしにいませんか？
- 雪の重さで壊れてしまうので、屋内にしまっておきます。

斜面や崖

- 斜面や崖のある近くは、雪が積もると端がわかりにくくなり、転落の危険があります。
- ポールを立てるなど冬前に目印をつけておきましょう。

車庫や小屋など

- 庭の物置小屋等は、一般に住宅より強度が弱く、早めに屋根の雪下ろしが必要です。
- 冬期でも小屋の中の出入りが必要な場合、住宅と同様に出入り口や屋根の雪を下ろす場所を確保しましょう

排雪場所・沿道条件など

- 屋根から雪を下ろす場所があるかどうか確認しておきます。
- 下ろしても問題ないか、下ろしたあと、処理しなくてはならないかなど、住民と対話して確認しましょう。
- 敷地が狭く、雪を道路に出さざるを得ない場合、勝手に雪下ろしできません。行政との調整も必要になります。

屋根の形・向き

- 屋根の形・向きによって、雪の下ろし方に制限がでます。
- 雪止めの有無、はしごの有無とかける位置など、事前にイメージしておきます。
- 軒下は、雪庇が突然落ちることがあり危険です。軒の位置と屋根構造を確認します。

雪が積もる前からよく確認しておくことが大切じゃ！

